



地域企業の貢献

～資産有効活用による期間限定の魅力創出プロジェクト～

群馬県 県土整備部 都市計画課
(取材協力：東邦亜鉛株式会社)

まちづくりや地域の魅力づくりに、決まった形はありません。地域の特性や、そこに関わる人々の思いに応じて、多様な手法が生まれていきます。今回ご紹介するのは、東邦亜鉛株式会社安中製錬所による、期間限定の工場夜景復活プロジェクトです。

本プロジェクトについて、資産の有効活用・地域活性化の観点で東邦亜鉛株式会社安中製錬所の方にお話を伺って参りましたので、ご紹介いたします。

東邦亜鉛株式会社安中製錬所は、事業再編により工場稼働範囲が縮小され、長年愛されてきた工場夜景は惜しまれつつ、以前より暗くなっていました。

そんな安中市長をはじめとして、地域の方々からは「なんとかこの夜景を残せないか」という声が寄せられ、安中市の合併20周年事業として、令和8年3月18日から23日の6日間の限定で工場の明かりが点灯され、夜景が復活しました。

担当者の中島さんは、「ここまで反響を呼ぶとは思わなかった」、「長い間、地域や観光客に愛されていた施設であることを改めて実感した」と振り返ります。実現させるには、使用を止めていた複数の照明を点灯させる必要があったため、苦勞した点もあったとのことですが、プロジェクトを成功させるため最善を尽くす思いで、事前に試験点灯を実施し、見栄えについて複数個所から確認を行ったとのことでした。かつては地元のシンボルとして、帰省者から「地元を実感する明かり」などとして親しまれてきたこの夜景は、最近では県外等遠方からもファンが訪れる観光スポットとしても親しまれておりましたが、本プロジェクトの実施が報道されると、ファンから複数の反響があったとのことでした。期間限定ではありましたが、プロジェクトを見に訪れた地元の方、工場OBの方やファンから「思い出の夜景が復活してうれしい」との声をいただいたとのことでした。

本記事では、地域に親しまれてきた貴重な夜景の復活に取り組まれた地域企業の期間限定のプロジェクトを紹介しました。担当者の方からお話を伺い、最善を尽くして地域やファンの思いに答えたいという熱い思いが伝わってきました。地域に根付いた資源を見直し、活用することで、新たな価値を生み出した事例といえます。まちづくりにおいては、新たな整備だけでなく、こうした既存の魅力をどのように活かしていくか、そして、こうした地域を愛する思いがとても大切であるということに改めて学びました。

取材協力いただきました方々には感謝申し上げます。ありがとうございました。



期間限定で復活した東邦亜鉛株式会社安中製錬所の工場夜景

